

国際芸術祭「あいち2022」舞台芸術公募プログラム

ニンフェアール第17回公演

クセナキス生誕100年記念：究極の弦

2022 9/26 MON

18:45 開演 (18:15開場)

愛知県芸術劇場小ホール

地下鉄「栄」、「久屋大通」駅下車
愛知芸術文化センター 地下1階



澤田幸江 (ヴァイオリン)
Sachie Sawada; violin



佐藤洋嗣 (コントラバス)
Yoji Sato; contrabass

■■ チケット (消費税込・全席自由) ■■

一般 ¥3,000 学生 ¥2,000 (当日各500円増)

*学生料金は25歳以下対象 (要証明書)
未就学児のご入場は、お断りする場合がございます。

【割引】国際芸術祭「あいち2022」現代美術展チケット (1DAYパス、フリーパスいずれも可) を持参の方は、当日公演チケットが500円引きとなります。又、本公演チケットを国際芸術祭の各会場にある直営チケット売場等でご提示の場合に限り、国際芸術祭「あいち2022」現代美術展の会期中販売券が100円引きとなります。

■■ チケットのお取り扱い・お問い合わせ ■■

愛知芸術文化センター地下2階プレイガイド 052-972-0430 (月曜定休)
ニンフェアール nymphheart@yahoo.co.jp 090-5621-3697

- 主催 ニンフェアール
- 共催 国際芸術祭「あいち」組織委員会
- 助成 公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団
- 後援 日仏現代音楽協会、国際組織 Meta-Xenakis

★クセナキス《ミッカ》
ヴァイオリンソロ

★クセナキス《テラプス》
コントラバスソロ

Xenakis: Mikka, Theraps

★ユン・イサン《Together》
ヴァイオリンとコントラバス

Isang Yun: Together

★シュトックハウゼン
《ティアクライス》
ヴァイオリンソロ

Stockhausen:
Tierkreis

★藤倉大《BIS》
コントラバスソロ

Dai Fujikura: BIS

◎世界初演

★板倉ひろみ《新作》
ヴァイオリンソロ

Hiromi Itakura

★伊藤美由紀《新作》
ヴァイオリンとコントラバス

Miyuki Ito

★水野みか子《新作》
コントラバスソロ

Mikako Mizuno

"Music is a sociocultural phenomenon."
by Iannis Xenakis
(1922-2001)

ヤニス・クセナキス生誕100年を記念してニッフェアール第17回公演では、彼の作品、同時代にヨーロッパで活躍したシュトックハウゼン、ユン・イサンの作品、愛知県を拠点に国際的に活躍する板倉ひとみ、伊藤美由紀、水野みか子の3名の作曲家の新作を含みヴァイオリン、コントラバスに焦点をあてます。『音楽は音によって知性を表現することである』（クセナキス）多彩な知性の集結した『究極の弦』を澤田幸江、佐藤洋嗣の演奏でお届けします。

◆ニッフェアールについて

2005年愛知県で開催された国際芸術音楽祭に参加を機に作曲家の伊藤美由紀により結成されたプロジェクト。愛知県にゆかりのある作曲家、演奏家を国内外から招聘し、テクノロジーを利用したり、映像作家とのコラボレーション、文学をテーマとしたコンサートなど、個性的なアイデアで精力的に企画を行う。2014年第10回公演『東洋と西洋の絃』にて、チャレンジ精神に満ちた企画で且つ公演成果の水準の高い優れた公演に贈られる第14回佐治敬三賞を受賞。

~Profile~



澤田幸江
(ヴァイオリン)

愛知県立芸術大学音楽学部卒業。大学在学中に中村桃子賞、卒業時に桑原賞を受賞。第67回読売新人演奏会出演。フィンランド国立音楽院シベリウス・アカデミーのソリストコースを最優秀の成績で卒業。在フィンランド日本大使館主催「日本・フィンランド修好80周年記念演奏会」に出演。1998年~2007年にかけてフィンランド北部「オウルンサロ国際音楽祭」に毎年出演。2000年にはヘルシンキにて初のリサイタルを開催し好評を得る。また、フィンランド・ラ・テンペスタ室内オーケストラのメンバーとしてフィンランド各地での公演やレコーディングに参加する。一方、日本国内においては三度にわたるソロリサイタル（いずれも名古屋・電気文化会館ザ・コンサートホール）を開催、オーケストラのソリストとしてモーツァルト、ベートーヴェン、シベリウス等のコンチェルトを協演、NHK-FM「名曲リサイタル」をはじめ各地での演奏会や音楽祭に出演している。ライフワークとして取り組んでいる北欧音楽の分野で愛銀教育文化財団より個人助成受賞。シベリウス没後50年を記念したリサイタル（名古屋市民芸術祭参加公演）では非常に高い評価を受け、第3回「名古屋音楽ペンクラブ賞」受賞。これまで愛知県立芸術大学音楽学部、三重大学教育学部の非常勤講師を歴任。現在、椋山女学園大学教育学部非常勤講師、日本シベリウス協会運営委員、ザ・ストリングス名古屋メンバー。



佐藤洋嗣
(コントラバス)

高校時代はエレクトリック・ベースを演奏し、卒業後コントラバスの魅力に触れ、転向。2006年東京音楽大学卒業。現在は室内楽、オーケストラ、アルゼンチン・タンゴなどを下から支えつつ、コントラバスの新しい可能性を探りながら演奏している。アンサンブル・ノマドのメンバー。バンドジャーナル誌に於いてワンポイントレッスンを連載。これまでに5回のリサイタルを開催。



板倉ひろみ(作曲)

愛知県立芸術大学音楽学部作曲科を卒業後に渡仏し、パリ・エコール・ノルマル音楽院、ストラスブール地方国立音楽院にてディプロム取得。SACEM、野村国際文化財団より奨学金授与。コルテミア市国際音楽コンクール、JFC作曲賞コンクール等入選。これまでに金子みすゞコンサート、新美南吉生誕100年記念コンサートの作曲に携わり、多くの独唱・合唱作品が演奏されている。また、ダンス「愛・かぎつばた姫」や刈谷市総合文化センター管弦楽団・定期演奏会ではオーケストラ作品を手掛けた。現在は東海地方を中心に作曲家・編曲家として活動する傍ら、愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、愛知県立碧南高等学校にて非常勤講師を務めている。



伊藤美由紀(作曲)

愛知県立芸術大学、マンハッタン音楽院修士課程修了後、コロンビア大学（ニューヨーク）で作曲をトリストン・ミュライユに師事、博士号を取得。文化庁芸術家在外研修員としてIRCAM（フランス国立音響音楽研究所）にて研鑽を積む。ミュージック・フロム・ジャパン（ニューヨーク）、アタック・シアター（ピッツバーグ）、愛知芸術文化センター、Sinus Ton（ドイツ）、大矢素子、加藤訓子、等からの作品委嘱ほか、名古屋文化振興賞、日本交楽団振興財団作曲賞入選、フランコ・エヴァンジェリスティ国際コンクール（イタリア）優勝などを含み、カーネギーホール、レゾナンス・フェスティヴァル（パリ）、ISCM（香港、エストニア）、ICMC（マイアミ）、SMC（ギリシャ、スペイン）、Re:New（デンマーク）、Visiones Sonoras（メキシコ）、Foro国際現代音楽祭（メキシコ）、アジア音楽祭など国内外で作品の発表を続けている。また、ニッフェアール、JUMP（日米：新しい音楽の展望）の代表として自主企画公演を定期的に展開。ニッフェアール第10回公演は第14回佐治敬三賞受賞。『時の砂』がALCD80から、『もうひとつの声』が2020年トーンフォレスト・レコードからリリース。執筆活動として『音楽現代』に特集記事や公演批評を寄稿。『二十五絃箏の可能性』の研究テーマが、2019年カワイサウンド技術音楽振興財団研究助成を受賞。今まで名古屋芸術大学、千葉商科大学、愛知県立芸術大学大学院、愛知県立大学、四川音楽学院(中国)などで後進の指導にあたっている。



水野みか子(作曲)

作曲家と音楽学の分野で活動。作品は、Bourges電子音響音楽祭、ランスAvantgarde（フランス）、GEDOK（ドイツ）、Venice国際音楽祭、Alba国際音楽祭（イタリア）、Ars Poetica（モルドヴァ）、Musicacoustica（中国）、衛武宮国立芸術センター開館記念演奏会（台湾）、セントラル愛知交響楽団定演、オーケストラ・プロジェクト2020等で上演されている。ISCM2001/2010、国

際コンピュータ音楽会議ICMC2017/2018/2019/2022、国際音楽新インターフェイス協会NIME2021、ニューヨーク電子音楽祭2019/2022等入選・入賞多数。近作に、管弦楽のための〈ミルフォード・ポンド〉、〈Parva naturalia〉、三重奏曲かぶきじゃないかぶき（cl/vc/pf）、笙とチェロのための〈紺碧水の向こうがわ〉、異なる時空間に存在する2台ピアノのための〈Diatema〉、8chオーディオ作品〈風の譜〉などがある。日本電子音楽協会会長、国際コンピュータ協会理事、Meta-Xenakis科学芸術委員、名古屋市立大学教授。